

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成25年1月17日(2013.1.17)

【公開番号】特開2010-127942(P2010-127942A)

【公開日】平成22年6月10日(2010.6.10)

【年通号数】公開・登録公報2010-023

【出願番号】特願2009-270303(P2009-270303)

【国際特許分類】

G 01 N 21/35 (2006.01)

G 01 N 21/65 (2006.01)

C 07 C 47/055 (2006.01)

C 07 C 45/38 (2006.01)

C 07 B 61/00 (2006.01)

【F I】

G 01 N 21/35 Z

G 01 N 21/65

C 07 C 47/055

C 07 C 45/38

C 07 B 61/00 3 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成24年11月22日(2012.11.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 7】

例示の目的で本発明を上記に詳しく説明したが、そのような詳細は、単なる例示目的にすぎず、請求の範囲によって限定され得ることを除き、本発明の精神および範囲から逸脱せずに当業者によって変更され得ると理解される。

本発明の好ましい態様は、以下を包含する。

[1] ホルムアルデヒド水溶液の重量を基準として25～56重量%のホルムアルデヒド含有量を有するホルムアルデヒド水溶液の連続的な製造方法であって、

a) メタノールを酸化して、ホルムアルデヒド水溶液を製造する工程、および

b) ホルムアルデヒド水溶液のホルムアルデヒド含有量をオンライン分析によって決定する工程、および

c) b)において決定したホルムアルデヒド含有量と所望のホルムアルデヒド含有量とを比較する工程、および

d) 必要に応じて、水を添加して、所望のホルムアルデヒド含有量をホルムアルデヒド水溶液中に得る工程

を含んでなる方法。

[2] b)において、ホルムアルデヒド水溶液のスペクトルを記録し、および計量化学較正モデルに組み込む、[1]に記載の方法。

[3] スペクトルは、近赤外スペクトル、中赤外スペクトルまたはラマンスペクトルである、[2]に記載の方法。

[4] ホルムアルデヒド水溶液のメタノール含有量もb)において決定する、[1]に記載の方法。

[5] ホルムアルデヒド水溶液のメタノール含有量をオンライン分析によって決定する

、[4]に記載の方法。

[6]工程b)において決定したホルムアルデヒド含有量を、工程a)を制御するために用いる、[1]に記載の方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ホルムアルデヒド水溶液の重量を基準として25～56重量%のホルムアルデヒド含有量を有するホルムアルデヒド水溶液の連続的な製造方法であって、

a)メタノールを酸化して、ホルムアルデヒド水溶液を製造する工程、および

b)ホルムアルデヒド水溶液のホルムアルデヒド含有量をオンライン分析によって決定する工程、および

c)b)において決定したホルムアルデヒド含有量と所望のホルムアルデヒド含有量とを比較する工程、および

d)必要に応じて、水を添加して、所望のホルムアルデヒド含有量をホルムアルデヒド水溶液中に得る工程

を含んでなる方法。

【請求項2】

ホルムアルデヒド水溶液のメタノール含有量もb)において決定する、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

工程b)において決定したホルムアルデヒド含有量を、工程a)を制御するために用いる、請求項1に記載の方法。